

# 代表の 白水 幹久さん



Motohisa SHIROMIZU

## 多くの方に支えられて！

我孫子市育成会を今まで支えてくださってきたのは今の団塊の世代と言われる年齢層から上の方たちです。今から20年、30年先の我孫子市は障害者教育・福祉に関しては、他市同様の状況でした。今ほど情報化もされていなかったし、障害そのものの研究においても今ほどに理解が進んでいない状況下で、中にはいわれのない「偏見や差別」などもあった中で、子どもたちの「幸福追求」のみを考え訴え市民に理解を得て、行政協力を得てここまで道のり、ご苦労は並み大抵のものではなかったのではないかと思います。

## 取り巻く環境の変化

昨年秋に成立した「障害者自立支援法」により、これからの障害福祉は、地域での共生、就労の場の多様化など、乳幼児期から老齢期にかかわる生涯教育・福祉の充実が叫ばれております。また、昨今の調査では「ニート」とよばれる若者達の40%近くが「軽度発達障害」ではないかとの報告も出てきております。

## 誰もがいきいきと生活できる我孫子に！

障害者と言っても「多様」なさまざまな人達すべてに「スポット」をあて、一人一人のニード状態にあった活動を展開し、誰もがいきいきと生活できる我孫子市づくりへ邁進したいと考えています。

1959年東京都世田谷生まれ。47歳。中央大学経済学部卒業後、証券会社などを経て、2001年1月浦安市に、総合保険代理店(有)ブレインパートナーズを設立し取締役社長。平成5年結婚と同時に天王台へ。以来13年間、我孫子市民。脳の機能障害である「自閉症」の長女愛香・次女有香と2歳半になる長男啓陽と妻5人暮らし。本年9月28日「特定非営利活動法人」の登記を完了し、初代理事長に。

## 私にとってのCB

重度の障害者は働けないのでしょうか？  
その子にあった工具をつくってあげたり

とか、環境にあわせるのではなく、一人一人のニードに即した環境を設定してあげれば、いきいきと、楽しく暮らしていけるはず。ノーマライゼーションという言葉が、いつの間にか「普通の人と同じようになってもらいたい」というように誤解されている方もいます。本来のノーマライゼーションとは、合理的配慮のもと、障害者が健常の人達と同じようにあたりまえに生きていけるような、環境設定をしていくことではないかと思えます。障害者だけでなく、高齢者や弱者と言われる人すべてにおいて、有益な方向を模索しています。

## 起業するための3つの秘訣

常に障害児・者の  
応援団であるとい  
う自覚

多様な障害特性を  
認識し、一人一人  
のニードの把握

ともに学び、遊び、  
はたらく喜びの追求と  
場の実現

## 特定非営利活動法人 我孫子市手をつなぐ育成会

### 連絡先

TEL 04-7149-9070

FAX 04-7149-9070

E-mail

bralnp@soleil.ocn.ne.jp

Web

## 組織概要

予算規模 4000万円（みずき作業所授産売上げ250万円/喫茶  
ぷらっと売上げ870万円/売店ひろがり売上げ240万円  
/自販機収入200万円（17年度） 平成18年度全体  
売上げ目標2000万円

会員・社員数 会員：120名 社員：みずき作業所（正職員3名/  
非常勤4名） みずき作業所：通所21名/喫茶ぷらっと  
非常勤3名/喫茶ぷらっと雇用者3名/売店ひろがり：雇  
用者1名

事業概要 指定管理により「我孫子市福祉作業所みずき」の運営 喫茶  
「ぷらっと」の運営（アビスタ内） 売店「ひろがり」の運営  
（現在市民会館内、市民体育館へ移転予定。 自動販売機の設  
置運営 その他、育成会活動に関わる、教育・福祉・就労支援  
の相談

PR

喫茶「ぷらっと」（アビスタ内）で障害を持つ従業員をサポートして下さる  
有料ボランティアの方を募集中。 心理系大学生、大学院生の方で、特に将  
来「発達心理」（精神保健福祉士、臨床心理士など）目指している方で、  
「みずき作業所」「ぷらっと」の利用者をサポートして下さる有料ボラン  
ティアの方募集中です。 教育関係（特別支援教育）に従事または理解のあ  
る退職者の方で、育成会活動の運営にご協力いただける方